

■読みに困難のある子どもへの実践事例

マルチメディアDAISY図書を活用して、読みに困難のある子どもも楽しめる読書活動にしていく取り組み

安来市立南小学校
秋田 治美・久保井 かおり

はじめに

マルチメディアDAISY図書を活用してから、今年度で3年目になりました。今年度も、引き続いてマルチメディアDAISY図書を活用することで、読みに困難を感じている子どもたちに本を読むことの楽しさを味わわせたり、書いてあることの要点や感想を簡単な文章でまとめたりすることができるようにしていきたいと思います。昨年度に引き続き、低学年の時期での取り組みを充実させることや、一人ひとりのわかり方をふまえた活用ができるようにしていきたいと思います。

活用のための準備

(1) 全校への周知

今年度は、図書委員会の子どもが給食の時間を利用して全校に説明を行い、周知を図りました。

(2) 校内での活用場所

学校図書館、メディアコーナー、通級指導教室



DAISY図書コーナー

(3) 校内での環境整備

一昨年度より、できるだけ多くの子どもたちに使用させたいと考え、6台のパソコンが使えるように設定し、それぞれにヘッドホンを準備したり書籍版を準備したりしました。また、年度当初に校内での活用方法について全教職員に伝え、連携体制を確認しました。

(4) 校内での活用時間

学校司書のいる業間や昼休みの時間や学校司書のいる朝読書の時間、学校司書と連絡が取り合える学級活動や国語の時間に活用しました。

活用の実際

4年生は昔話、3年生は『おこだでませんように』『まいごになった子どものクジラ』などの本から自分で選んで視聴するようにしました。

その後、ワークシートに「何が出てきましたか?」「何をしていましたか?」「これからどうなると思いますか?」「あなたならどうしますか?」という視点でまとめるようにしました。どう書いたらいいのか困っている子どもには、指導者が声をかけて思いを引き出し、まず言葉にしてから書かせるようにしました。

特別支援学級の子どもは、国語や学級活動の時間を使って取り組みました。

最初は文字への関心があまりなく、ひらがなを覚えることもできにくかった子どもが、自分の選んだ本を「うんうん」とか「へー、そうなんだ」などとつぶやきながら、目を輝かせて視聴している姿が見られました。

視聴した後でワークシートに書く活動をする際、書きにくい子どもには、おもしろかったところの絵を描き、何がおもしろかったのか聞き出して言葉にしてから書くようにしました。

9月から10月にかけては1年生、11月は2年生での取り組みを行いました。

それぞれの学年で2回ずつ取り組みましたが、ワークシートは2回とも同

じものを使いました。1回目には、やり方や書き方を丁寧に教えて取り組みましたが、2回目になると、やり方や書き方を覚え、自分で書けるようになりました。



視聴している様子

(1) 低学年で見られた姿

3年間の取り組みをしていく中で、文字習得の初期段階である低学年での取り組みは重要であると感じています。

1年生では『どうぶつのおかあさん』など内容の捉えやすい読み物を視聴し、ワークシートを書かせる取り組みを行いました。『どうぶつのおかあさん』の本を視聴していた子どもが、「何が出てきましたか?」の質問に対して「ごりらが出てきた」と答える場面がありました。

実際には「ちんぱんじー」だったのですが、なんとなく自分の知っている「ごりら」と誤認識していたのです。原本を見て「ちんぱんじー」であることを一緒に確認しました。それ以後、

学級での学習の際、文に書いてあることを確かめるようにしているようです。



ワークシートを書く子どもの姿

(2) Uさんに見られた姿

Uさんは、読むことや書くことに苦手さのある子どもです。現在4年生ですが、2年生の時から、マルチメディアDAISY図書で読書を始め、3年生になると、視聴した後で好きな場面の絵を探す取り組みをしました。

今年度は、ワークシートを使って書く活動を取り入れました。ワークシートに書く際には、「何が出てきたか」「何が何をしていたか」など、書くことを明確にしておきました。そして、大人が声をかけて、自分の漠然とした思いを言葉にしていく過程を大事にしました。

書くことがはっきりしてくると、書くこうという意識が見られるようになってきました。視聴してからワークシートに書く時、1回目より2回目がたく

さん書けるようになっていました。これは、大人が声をかけてことばを引き出していくことで書けるようになってきているのだと思われます。

その後、2学期になってからも何回か実施しましたが、だんだん自分だけで書けるようになってきました。取り組みを始めてから、国語などで文章を書く場合にも、以前より楽に書けるようになり、音読も楽しんでするようになってきました。読み方を音声で聞くことで、どんなふうに読んだらいいのか学んだように思いました。日常の場でも、少しずつ自分の思いを言葉にできるようになってきているように感じています。

まとめ

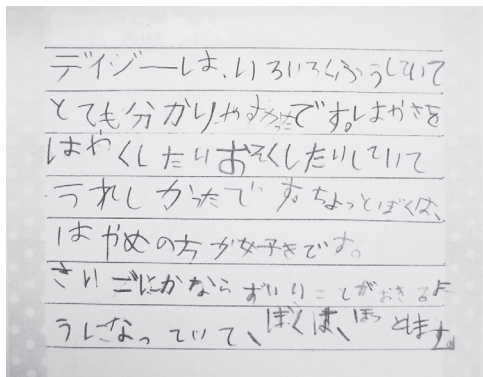
読みに困難を感じていた子どもにとって、読むことにエネルギーを使わなくてもいいことで、ワークシートを書くことに気持ちが向いていくのではないかと考えられました。内容がわかることや、思いが文字で書けることで満足感をもち、またやりたいという気持ちが起こり、この気持ちが、他の学習や生活にも影響を与えるようになるのではないかと思います。

子どもにアンケートを取った中に、速さを自分で調整できることや、読む人が読み方を工夫しておられて楽しく聞けることもよかったなどの感想があ

りました。視聴する場合、何冊かの本の中から自分で選んだり、視聴する速さを自分で調節したりすることで主体的な活動になり、意欲的に取り組むように思われます。また、低学年のうちからさまざまな読書の方法を知っておくことは、自分にふさわしい読書の仕方を見つけていくことにつながっていくのではないかと考えています。

今年度は、校内の職員研修会や地域の教員を対象とした研修会で、マルチメディアDAISY図書の取り組みについての実践発表をしました。

3年間の取り組みをする中で、今までなかなか読書に向かえなかったり、書くことに苦手意識をもったりしている子どもに対して、担任や学校図書担当と学校司書が連携して情報を共有し、子どもの学びに生かすことができるようになってきたと思います。



子どもの感想

今後の活用と課題

朝読書の際に、子どもの必要に応じて、マルチメディアDAISY図書を視聴することもできるようにしていけるとよいと思っています。そのためにiPadを使った取り組みも取り入れられたらよいと思っています。

教科書に載っている読み物教材や短時間で読み切ってしまう読み物は、学習へのつながりをつけることもできるので、今後もマルチメディアDAISY化していただけることを望みます。

